

自然を語る会

- *日 時：2020/11/21(土)
- *場 所：飯田橋ボランティアセンター＋ZOOM
- *参加者：飯田橋4名、ZOOM12名
- *担 当：小川真理子さん

「身近でできるSDG's エシカル消費 全3巻」(さ・え・ら書房)

今回は、エシカル消費を取り上げた。

参考図書は「身近でできるSDG's エシカル消費 全3巻」(さ・え・ら書房)。子供向けの書籍だが大変わかりやすく書かれている。担当の小川真理子さんが、1巻につきA4・1枚の資料にまとめてくださった。

【1巻：エシカル消費って何？】

エシカル(ethical)消費とは、

- *身の回りのものは世界に繋がっている、その繋がりに気づき、知り、思いをめぐらせながら
- *物の過去・現在・未来を考えて消費すること、だそう。

- ・はじめに10の問いがあり、皆で回答して各自のエシカル意識度(?)を確認した。「料理の材料を生産してくれた人などのことも考えるか」という問いについて、そこまでは意識していない人が多かった。
- ・物の「未来＝処分方法」を考えること(例：原発)の重要性や、エシカルという横文字をもっと日本人にわかりやすい言葉で表現できないか、という意見もあった。
- ・GDPに占める家計消費の割合は50%を超えていて、消費者の生産者に対する影響力が大きいこともわかった。
- ・またフェアトレードについて、適正価格や児童労働禁止以外にも、「プレミアム(奨励金)」の支払いがあることも紹介された。これは地域をよりよくするために生産者に支払われるもの。(例：学校建設、井戸掘り)

【2巻：エシカル消費でSDG'sを！】

SDG's(エス・ディー・ジーズ)とは、

- *Sustainable Development Goal'sの頭文字で2015年9月に「国連持続可能な開発サミット」で採択された17の目標。
- *「将来にわたって暮らし続けていけるように、世界をよくしていくための目標」という意味になる。
- *生活を豊かにし経済を発展させつつも、資源の消費を減らすことにより環境問題の解決をはかり、「持続可能な社会」を目指す。

目標項目12の「つくる責任つかう責任」について、食品ロスに関する意見や体験が多くだされた。食品ロス以外の廃棄の問題として、1巻でも触れた「原発の廃棄物」も改めてだされた。

- ・家庭からでる食品ロス量は、全体の半分弱にもなる。飲食店等業務用のほうが多いように思えるか？→企業は家畜の飼料などに再利用するしくみがある。家庭からでるものは、そのままゴミになってしまう。
- ・賞味期限表示に頼らず、自分の五感で食べられるかどうかを判断できるようにすることが大事との意見も。(実際にパック入りの豆腐で試してみたそう。)
- ・フードバンクを行いやすい自治体の規模は、大きすぎず小さすぎない所がよさそう。
- ・戦中・戦後の食料不足の経験者は、もったいない精神を持ち続けており、食材も捨てることはほとんど無い。対して、飽食の世代は食べ物を捨てることに抵抗がないのかも。
- ・人には多めに振る舞う文化(日本だけでなく、中国でも)との関係性・・・など。

【3巻：エシカル消費をやってみよう！】

*エシカル消費の実践を長続きさせるコツは「無理せず、できる範囲で」ということのようなのだ。

- フェアトレード商品は価格が高いし、食品ロスを減らしたいと思いつつも食材購入時は賞味期限や消費期限も気になる。「こうあらねば」ではなく、その時々自分の状況と相談してできる場合は試してみると思うと気が楽という声もあった。
- エシカル消費は自分達だけが苦労するようで納得できないという疑問について「ペイ・フォワード(他人に受けた親切を別の人に返す→善意の輪が広がってゆく)」の考え方が紹介された。
- 「消費者は自由に買い物したい、生産者が最初から環境にやさしいプロセスで生産してくれれば消費者は何も考えずに好きなものを買うようになる」という意見も。それに対し「企業は売れるもの・安いものを追及するので、安価な労働力や材料になりがち。企業(生産者)にまかせておいてよいものか？」との消費者の意識を問う意見もでた。
- 「自分事」としてとらえ、活動することが大事。

*フェアトレードタウン(まちぐるみでフェアトレード)

日本では2011年に熊本市が最初、2019年1月現在名古屋市、逗子市、浜松市が紹介された。

*実際の取り組み例として

- Green Down Project：羽毛の回収、洗浄、再生販売。ユニクロの取り組みが最近テレビで紹介されたことが話題になった。(ユニクロは羽毛以外の自社製品の回収も行っておりリユース等されている。会員さんの所属するボーイスカウトでも回収に協力しているそうだ。)
- バナナペーパーでつくる卒業証書や名刺。会員さんでバナナペーパーの名刺を作ろうかという方も。

ほかにも、恵泉女学園大学の有機園芸の農産物を活用した事例や、東京・吉祥寺の障がい者の手作り雑貨店「マジョルカ」などが紹介された。

(勝山久美子 記)